

研究員 の眼

老後にお金が足りないリスクをとるか、運用リスクをとるか？

金融研究部 主任研究員 北村 智紀
(03)3512-1854 kitamura@nli-research.co.jp

老後の生活にはお金が必要だ。公的年金があてにならないとすると、自分で努力して貯める必要がある。老後のための貯蓄には4つの重要な要素がある。一つめは、最終的に自分でいくら貯めるか、二つめは、いまいくら持っているか、三つめは、毎月いくら積み立てるか、最後の四つめは、いくら
の利回りで運用するか、である。

まず、最終的に自分でいくら貯めるかであるが、筆者等が実施したアンケート調査によれば、老後の生活費のために65歳時点で貯めておく必要がある金融資産額は、平均で約3千万円であった。この額があれば、例えば、毎月8万円を取崩したとしても、30年以上は取崩しができ、厚生年金を補う額としては十分であろう。

次に、いまいくら持っているかと、毎月いくら積み立てるかは、それぞれ人のライフスタイルに関わっている。毎月、貯められる額が多い人なら、いま保有している金融資産額も多くなるというのはわかる。しかし、貯めるにはいまの生活の一部をあきらめる必要があり苦痛である。それに、給料の中から貯めるので、できるだけ多く貯めたくても限度がある。

図表1は、前述のアンケート調査で、65歳時点での目標貯蓄額である3千万円から現在保有している貯蓄額を引いた、「これらか貯める必要がある金額」と現在の「毎月の計画的な積立額」である。貯める必要がある額は、30代では約2400万円、40代では2200万円、50代では1700万円であった。30・40代では、貯蓄の蓄積は少なく、貯める必要がある額は多い。50代では、蓄積は少し進んでいるようだが、半分には達していない。一方、毎月の積立額は2.0-2.6万円であった。年代による差はそれほど大きくない。

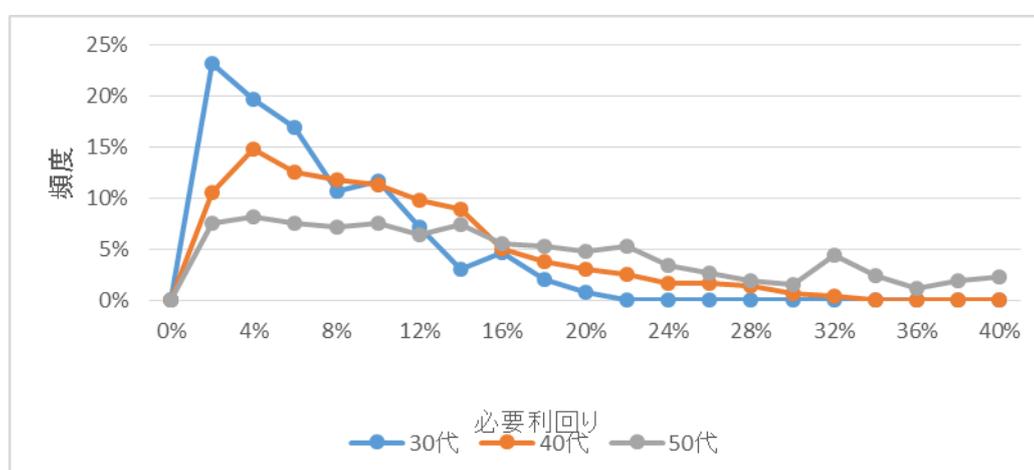
最後の運用利回りではあるが、多くの方は、銀行預金などの元本割れしない安全な運用方法を選択しているだろう。しかし、低金利の状況を考えると、利回りの確保は難しい状況である。

図表 1：必要貯蓄額・毎月の積立額・必要利回り

	3000万円までに 必要な残り貯蓄額	毎月の積立額	必要利回り
	百万円	月万円	
30代	24.3	2.0	5.9%
40代	22.0	2.1	9.3%
50代	17.4	2.6	18.9%

図表 1 の最右列は、現在の毎月の積立額で 65 歳時点まで積み立てたとして、3000 万円を貯めるのに必要な運用利回りを算出してみた。30 代だと 5.9%、40 代だと 9.3%、50 代だと 18.9% で運用する必要がある。

図表 2：必要利回りの分布



図表 2 は、この必要利回りの年代別の分布である。30 代では概ね平均あたりに集まっているが、年齢が上がるにつれ分布は平らになっており、高い利回りが必要な人の割合は増えている。このように、多くの人が、今の積立額を維持するならば、現在の銀行預金の水準を大幅に上回る利回りで運用しない限り、3000 万円を貯めることはできない。

いったいどうすれば良いのか？ 退職金なども考えられるが、もちろん、毎月の積立額（あるいは、ボーナス時の貯蓄）を増やすのが良い。しかし、言うのは簡単だけど、実際に実行するのは難しい。次に考えられることは、運用利回りを上げるよう努力することだろう。現在の低金利の状況では、図表 1 にある運用利回りの達成は難しい。やはり、ある程度はリスクをとって運用せざるを得ない。短期的には値下がりリスクもあるが、長期的な視点で見れば、株式や株式投信などは高い利回りが達成できる可能性がある。積立額を増額するか、運用リスクをとるかしなければ、老後の生活資金を十分に貯められない。リスクをとるのが嫌か、十分な貯蓄が貯められないリスクが嫌かの選択に迫られている。